

戸田市役所（埼玉県）

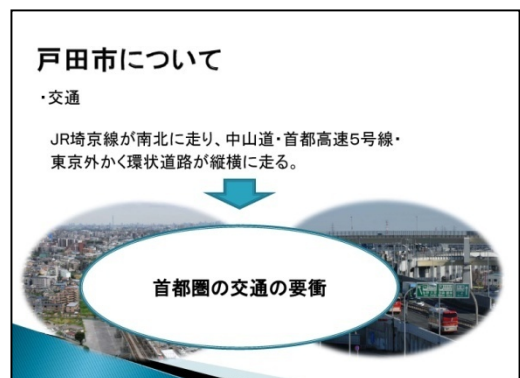
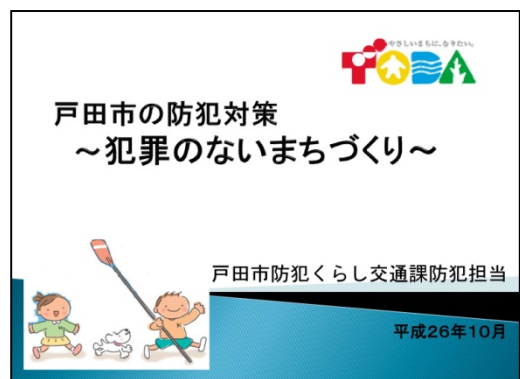
それではこれより戸田市の発表を実施させていただきます。渡邊と申します。真下と申します。本日は唯一自治体からの発表です。伝えたいことが多く、駆け足になってしまうかもしれないのですがご容赦をお願いします。



活動地域の紹介

まずは戸田市についてご紹介させていただきます。場所は荒川を挟んで東京都と隣接しております。東京と隣接してはいるのですが意外と自然が多くあり、大型の公園のような彩湖・道満グリーンパークは東京ディズニーランドよりも広い面積を保有しております。

こちらは彩湖という湖、そして荒川、ボートコースが戸田市にはあります。実は戸田市はボートの町として有名で、数年前にボート競技を取り上げたテレビドラマがあったのですが、その撮影で戸田のボートコースが連日使われていたと聞いています。東京には近いのですが水と緑に囲まれたまちです。



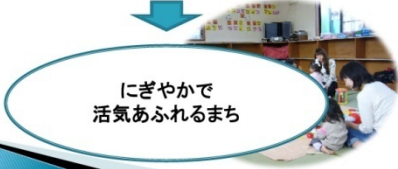
交通は文字通り埼玉と東京を結ぶ埼京線が走っております。道路は五街道のひとつである中山道と高速道路が2本通っています。この高速道路を結ぶ美女木ジャンクションですが、高速道路の中に信号機があるとても珍しいつくりをしております。鉄道と道路で首都圏の交通の要衝になっています。

人口は約13万1,000人で、いまのご時世の中ながらも増えています。特に若い世代を中心に増えていて、埼玉県の平均年齢よりも4歳近く若く、県内で一番平均年齢の低い市町村です。子育てをしやすい環境も整っておりまして、とてもにぎやかで活気あふれるまちです。

戸田市について

・人口 約13万1千人（平成26年8月末現在）

若い層を中心に増えており、子育て世代が多い。
埼玉県内で最も平均年齢が低い市町村
(平均年齢**39.2歳**)



にぎやかで
活気あふれるまち

- ▶ 自然豊か
- ▶ 交通の便がよい
- ▶ にぎやかで活気あふれるまち

ところが・・・

戸田市の現状

そんな魅力あふれる戸田市ですけれども、実はちょっとした弱みがありました。それがこちらの表にあります。これは戸田市の犯罪発生率を表した表ですが、ここに6年連続平成9年から1位という結果が出ているのですが、これはワーストの順位になるので、県内で最も犯罪発生率が高い時期がずっと続いていたことになります。

戸田市の犯罪発生率（～平成15年）

年	犯罪発生率	県内ワースト順位
平成9年	28.91	1位
平成10年	33.12	1位
平成11年	37.60	1位
平成12年	37.13	1位
平成13年	39.47	1位
平成14年	40.48	1位
平成15年	41.24	2位

※犯罪発生率＝人口1,000人当たりの犯罪発生件数

戸田市で犯罪が多発した要因は？

- 1 地域性**
 - ・東京都に接し、交通の便がよい
 - ・埼京線開通後の人口増加
 - ・倉庫が多く、夜間の人影がない
- 2 地域コミュニティの希薄化**
 - ・転出転入人口の多さ
 - ・集合住宅の増加
- 3 その他要因**
 - ・警察官の絶対数の不足
 - ・自転車利用者の多さ



どうして戸田市でこんなに犯罪が多発していたのかという要因ですが、先ほど私が紹介した戸田の魅力と対になるところもあるかと思います。地域性としては交通の便がよく、埼京線が通ったあとどんどん人口が増え、また、昔の名残で工場や倉庫が多く夜人通りの少ないところがいまだに残っています。

それといわゆるご近所付き合いが少なくなってきました。戸田は引っ越していく人や引っ越してくる人の割合がかなり多く、人の出入りが激しいまちです。アパートやマンションがどんどん増えて、隣に住んでいる人の顔もわからない状況が増えてきております。

その他としては、警察官の数が足りないこと。それから戸田はずっと平坦な地形が続きますので自転車を利用する人が多いのです。この自転車利用者の多さが、自転車の盗難が増える要因になっていると考えられると思います。

続いて、戸田市では、どのような犯罪が多いのかという話になります。ご覧いただく通り、自転車の盗難、車上ねらいや部品ねらい、スーパー等での万引きといった犯罪が多いです。いわゆる凶悪犯罪は戸田市ではほとんど発生しておりません。だからと言って安全なまちかというと、もちろんそうではなく、市民にとって身近な犯罪が多いのです。これは言い変えると誰もが被害者になる可能性が高いというのが戸田市の犯罪の特徴と言えると思います。

犯罪を防ぐにはということです。これまで防犯は警察の仕事という意識が大きかったと思います。これは住民にも我々行政にもそういう意識があったと思います。実際はどうかと言いますと、みなさんも活動を通じて感じていると思いますけれども、警察にすべて任せているだけではまちの防犯力は高まっていかない。そういったところに気が付き、様々な防犯活動に取り組んでまいります。

市内ではどんな犯罪が多いか？

- ・**自転車盗**
毎年、市内犯罪発生件数の3～4割を占めている。
- ・**車上ねらい/部品ねらい**
夜間人気のない駐車場が狙われている。
- ・**万引き**
大型ショッピングセンターや中規模スーパー等。

戸田市では凶悪事件は比較的少ない
⇒ **身近な犯罪が多い**
⇒ **誰もが被害者になる可能性が**



犯罪を防ぐには・・・

これまでは、
住民も行政も、犯罪を防ぐのは、
「**警察の仕事**」であるという意識が大きかった。



↓

しかし、警察だけに任せきりでは、**まちの防犯力**は、
決して向上していかない。

そこで・・・

活動(事業)内容・特長

実際の防犯活動の取り組みについてです。

まずは行動をということで平成15年より職員自ら防犯に取り組むことにしました。方法は徒歩、自転車、青色回転灯装備車両の種別を問いません。犯罪を1件でも減らしたいと考え自らで率先して始めたわけですが。現在市役所には青色回転灯装備車両、通称青パトが2台あり、水曜日を中心に職員が青パトなどで市内をパトロールしています。

まずは行動を！
平成15年～ 職員防犯パトロールの開始



青色回転灯装備「防犯対策車両」によるパトロール

夜間における徒歩でのパトロール
(自転車利用もあり)

防犯行政の誕生
平成16年

- ・**防犯対策室の設置**
(埼玉県警察より職員の派遣)
- ・「戸田市みんなで作る
犯罪のないまち条例」の施行
- ・「戸田市犯罪のないまちづくり協議会」
の設置



平成16年になり防犯対策室を設置しました。防犯対策室というのは現在の防犯くらし交通課の防犯担当の前身になります。その際、埼玉県警察から職員を派遣してもらうこととなりました。警察官は

2年ごとに交代しており、私自身もその派遣の警察官であります。

警察より派遣となっている私の役割ですが、市役所と警察のパイプ役です。お互いの持っている犯罪情報などを交換し、防犯行政に役立てています。平成16年の次の事業として、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指して、「戸田市みんなで作る犯罪のないまち条例」を施行しました。その中で「戸田市犯罪のないまちづくり協議会」を組織することを制定し11人以内の委員で組織することを決めました。

「戸田市みんなで作る犯罪のないまち条例」は平成16年4月に施行となりました。この条例が施行された年はまさに犯罪認知件数がピークに達した平成15年の翌年のことでした。条例の基本理念は「市・市民・団体及び関係行政機関が、その機能、及び能力をいかし、それぞれの役割を果たし、密接な連携を図りながら協働することで、犯罪のない安心して暮らせる地域社会を実現すること」です。

「戸田市みんなで作る犯罪のないまち条例」 平成16年4月施行

基 本 理 念

市・市民・団体及び関係行政機関が、その機能、及び能力をいかし、それぞれの役割を果たし、密接な連携を図りながら協働することで、犯罪のない安心して暮らせる地域社会を実現すること。

「犯罪のないまちづくり協議会」

戸田市の犯罪のないまちづくりに関する重要事項を協議するために、条例により設置された会議。

構成メンバーは、
・公募による市民
・学識経験者
・団体関係者
・市内事業者
・関係機関の職員



犯罪のないまちづくり協議会の会議は年に3回から4回開催し、会議では本当に委員の皆さまから様々な意見が出てきます。よく形だけの集まりになってしまうこともあると思いますが、戸田市犯罪のないまちづくり協議会に限っては、それはございません。昨年度は市内でひったくりが多発し、そのための取り組みとして委員の方のアイデアでひったくり防止カバーを制作しました。

こちらをご覧ください。これはひったくりそのものを防止するのはもちろんのこと、委員の方のアイデアで、カバーを反転して使用する際「やりません斜め横断、傘さし運転」のキャッチフレーズで自らを戒めることができるようになっています。このひったくり防止カバーは小中学校のPTA役員を中心に、市内に約1,200枚を配布させていただきました。

平成17年6月からは委託警備員による市内犯罪防止パトロールを開始しました。これは青パトによるものと自転車によるものとの両方です。7月には地内の西部に位置する氷川町にけやき安全ステーションを開設しました。続いて10月には市内の東部に位置するふれあい安全ステーションを開設しました。安全ステーションは市で運用する交番と説明するとわかり易いと思います。

これは犯罪防止活動パトロールの様子です。左の写

真は委託警備員による市内巡回パトロールの様子です。委託警備員は市内東西2か所設置された安全

積極的な防犯活動支援

平成17年

- 6月 委託警備員による市内犯罪防止パトロールの開始
- 7月 「けやき安全ステーション」開設
(氷川町けやき公園わき)
- 10月 「ふれあい安全ステーション」開設
(上戸田ふれあい広場内
平成26年1月に下戸田交番跡地へ移設)

ステーションを拠点として巡回パトロールを実施しています。右の写真は委託警備員による青パト運行時の状況ですが、平成24年6月からは深夜の運行も開始しました。深夜帯のパトロールについては痴漢や不審者対策、空き家への立ち寄り、少年のたむろ対策など市民からの要望も多くありますので、それらの要望に積極的に対応させていただいています。

平成22年度からは警察官OB2名を非常勤職員として採用し、昼間に青パトを運行してもらっています。警察官OBは実際に泥棒や交通犯を検挙してきた経験もあるので防犯上の着眼点もあります。それらの経験を役立て大きな戦力になっております。

戸田市では各種防犯講座を開講しています。平成17年からは地域の防犯リーダーを育成してそれぞれの地域で防犯活動を進めてもらうとの主旨からボランティアリーダーカレッジを開校しました。卒業生には現在でも市内犯罪情勢の報告を実施しており、それぞれの地域や職場から防犯活動を推進してもらっています。

平成22年度からは市民大学認定講座として、防犯関係の講座を毎年開講し聴講していただいております。内容はその時の犯罪情勢に合わせて様々なものを実施しております。これらの講座の目的は地域の皆さま自らが防犯意識を高めてもらうことにあります。そして防犯リーダーを育ててそれぞれの地域や職場、家族に対して防犯意識を広めていただくことが、私ども防犯担当者の第一目標であります。

先ほど説明させていただきましたが、防犯拠点である安全ステーションを市内2か所に設置しています。戸田市は南北に最大4キロメートル、東西に7キロメートルと比較的コンパクトなまちとなっております。市内の東西において、西側にけやき安全ステーション、東側にふれあい安全ステーションを設置しています。各ステーションに入っている警察官OBのステーション長や民間警備員は、自転車で市内をパトロールしたり、各町会の自主防犯パトロールに随行しています。

警備員の方々は自転車の前かごに録音された広報文の入ったトランジスタメガホンを入れ、繰り返し防犯のための注意を呼びかけています。警備員の方たちにはよく自転車で走り回ってもらっており、3か月に1回は自転車のタイヤを交換するほどです。

犯罪防止活動支援パトロール



委託警備員による市内巡回防犯パトロール活動

平成21年6月からは深夜の時間帯も青パトで巡回



平成22年度～警察官OBによる青パト運行を開始

- 警察官OBの非常勤職員2名による、青色回転灯付防犯対策車両での市内巡回パトロール活動



AEDも搭載！

各種防犯講座を開講



平成17年度からは、地域の防犯リーダーを育成するためにボランティアリーダーカレッジを開講。卒業生は、それぞれの地域で地域防犯リーダーとして活躍中。

平成22年度からは、市民大学認定講座として、各種防犯講座を実施。

自主防犯意識の醸成を目指す

市内防犯拠点「地域安全ステーション」



けやき安全ステーション
048-441-0019



ふれあい安全ステーション
048-432-5545



戸田市では、市内小学校へ民間警備員を配置しております。警備員は登下校時の見守りや交通誘導、校舎内外での警戒活動を実施しております。その他に防犯カメラを市内の小学校 12 校、中学校 6 校にそれぞれ 6 台ずつ配置し、不審者の出入りに備えております。

**○市内小学校への警備員配置と
小中学校の防犯体制を確立**

市内12小学校へ民間警備員を配置し、登下校時の見守りや交通誘導、校舎内外における警戒活動を実施。



市内小中学校全校に6台ずつ防犯カメラを設置し不審者の侵入等に備える。

その他の取組み

**○防犯回覧板・情報電子掲示板による
市民への情報の提供**



・防犯回覧板は隔月で発行
・情報電子掲示板は市内3カ所に設置

また、防犯回覧板を2か月に1回発行し、市内全域に回覧板として報告しております。内容は侵入盗や自転車盗、振込め詐欺の多発など、その時々犯罪情勢によります。

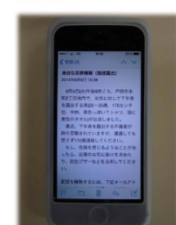
また市内の大型スーパーや総合病院に情報電子掲示板を設置し、各種防犯情報を提供させていただいています。

戸田市では「とだピースガードメール」という防犯情報を希望者に対し配信しています。情報は警察から提供していただいた犯罪情報や市民から寄せられた不審者情報などになります。配信登録者数は現在 4,400 名を超えています。

その他の取組み

○とだピースガードメールの配信

市内で発生した不審者情報や身近な犯罪情報等を事前登録したメールアドレスに配信。



平成26年8月末現在、登録者数は4,366名。(現在も増加中)

その他の取組み

○各種防犯キャンペーンの実施

地域の防犯活動従事者、関係協力団体、蕨警察署、市内学校の生徒達などに協力を呼びかけ、**「自転車盗難被害防止
ツーロックキャンペーン」**などを実施。



その他の取り組みとして犯罪のないまちづくり協議会の皆さんにより、自転車盗防止キャンペーンや交通担当者と連携した交通事故防止キャンペーンなどを実施しています。画面は市内の大型スーパーマーケットにおける自転車盗防止キャンペーンの様子です。

犯罪率の高くなってしまった戸田市ではありますが、昭和 60 年に埼京線が開通するまでは、駅もなく比較的落ち着いた土地柄でした。ところが鉄道の開通などによる都市化の進展により人の出入りが激しく、地域コミュニティが希薄になり人の目も行き届かなくなってしまうました。認知件数も平成 15 年には 4,610 件とピークに達し、その頃地域住民はこれではいけ

住民の意識は変わったか？

もともとは住民の防犯意識は高かった。
それが…、
人口の増加、社会生活の変化等による
「地域コミュニティの希薄化」へ

↓

しかし、犯罪の増加により…、
「自分たちのまちは自分たちで守る！」

住民たちによる自主防犯意識の向上
(住民の防犯意識の復活)

ないと立ち上がってくれました。住民により、自分たちの町は自分たちで守るという意識が生まれてきたのです。

市内の町会の中では南部に位置する南原町会が一番最初に立ち上がりました。そして平成 15 年 4 月に自主防犯パトロールが開始されたのです。その後市内各町会、市内各小中学校 PTA、シルバー人材センターなど急速に自主防犯パトロール団体が組織されるようになり、現在 50 を超える自主防犯団体が組織されています。

そこで、自主防犯活動に対する支援を行政側からも何かできないかということで、委託警備員によりほとんどすべての町会パトロールへの随行を行っています。その際市内の犯罪情勢などを町会の方々へ提供するとともに、町会の方々から身近な情報をいただいてパトロールに役立てさせていただいております。

自主防犯団体による防犯パトロール

平成15年4月、南原町会による自主防犯パトロールが発足。
その後、市内各町会・団体に自主防犯パトロールが急速に普及していく。



現在では・・・、
市内各町会による自主防犯パトロールを中心に、
50以上の自主防犯団体が活動中。



自主防犯パトロールへの随行



自主防犯団体の防犯パトロールには基本的に安全ステーション職員(警察官OB、警備員)が随行を行っている。

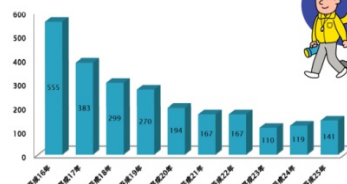


防犯指導、交通安全の確保、**活動の継続**を図る。

自主防犯パトロールが浸透していく中で最も顕著に効果が表れたのが侵入盗犯罪の減少でした。侵入盗は平成 16 年中に 555 件発生しておりましたが平成 25 年中 141 件にまで減少し、約 4 分の 1 まで下がっています。これは警察の努力ももちろんあるでしょうし、市で運営する青パトの運行などの効果もあると思いますが、何より住民自らが行う防犯パトロールによることが大きいことは間違いないと思います。

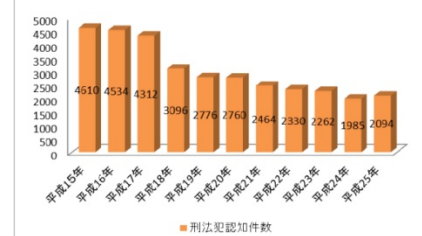
次に戸田市の過去 10 年間の認知件数を比較したグラフをご覧ください。戸田市の取り組みも一定の効果を発揮し、認知件数はピーク時の半分にまでなりました。犯罪率も万年 1 位から平成 24 年にはワースト 10 位にまで下げることもできました。グラフを見ていただいた通り認知件数は毎年下がり続けていましたが、平成 25 年の数値は一昨年のもより若干増えてしまいました。この減少傾向から一転しての上昇は我々防犯担当者としては気になることです。理由を私なりに考えてみましたが、犯罪減少も一定の域に達してしまったのかもしれないということがあります。青パトや巡回パトロールも頻繁に見られると慣れが生じてしまい、市民にも警戒心の希薄化というこ

侵入盗の件数の推移



侵入盗の大幅な減少は、警察・行政の活動はもとより、**地域住民による自主防犯パトロール**の影響が大きい。

犯罪発生件数減少傾向に歯止めか？



とがあるかもしれません。しかし言い訳は何とでもできるので草の根的な取り組みを実施し、市民を犯罪から守りたいと考えております。

今後の取り組み予定について

今年度は、交番統合により無くなった交番跡地に懸垂幕装置を配置すると共に防犯カメラを設置。

▶ 来年度の事業として市内3駅周辺等に防犯カメラ20基程度を設置予定。

その後、抑止効果を検証しながら市内各町会等へ防犯カメラを設置していく予定。

犯罪抑止に繋げる。



本年度取り組んだことに交番統合によりなくなった交番跡地に懸垂幕装置を設置しました。この場所は川口市との境にあるという交通上の要衝であることも考え、市民に防犯上の注意を喚起してもらうことができるように懸垂幕を掲げられる装置を設置しました。懸垂幕装置は振込め詐欺被害防止、暴力団排除など市民に啓発したい内容をその時々状況に合わせて掲げています。

この場所は元々交番跡地であり、市民から交番がなくなることへの不安が多く聞かれました。そこで防犯カメラ

の設置要望が高まったことなどもあり、急遽防犯カメラを設置することにしました。さらに来年度は市民からの要望が高まっていることから、市内 JR3 駅を中心に防犯カメラ 21 基を設置する計画を立てています。その効果を期待し、今後の犯罪防止につなげたいと考えております。

今後の課題

戸田市では以上お話をいただいたような取り組みをしまいましたが、今後の課題として、市内各町会のパトロール要員の高齢化問題があります。今後は市民の幅広い年齢層の方にパトロール参加してもらいパトロール活動員のすそ野を広げたいと考えております。

2 番目に職員パトロールの形骸化があります。かつて犯罪率ワースト 1 位に陥り、何とかしようと立ち上がった時の戸田市役所職員の心意気は惰性に陥り、残念ながら現在は弱くなっていると言わざるを得ません。そこは防犯担当者の及ばない点でもあり、問題意識を持ってもらうよう努力したいと考えております。

3 番目に犯罪率の低下が頭打ちになっている問題です。

市内各町会等の防犯パトロールもだいぶ浸透してまいりましたが、市役所でも考えられ得る施策は積極的に取り組んできたつもりであります。しかしながら、まだやり足りない点がいくつかあると考えております。そこでまず最初に取り組みたいのは、市民に訴える独自のポスター制作を考えております。ある統計によると、人は他人の視線を感じると犯罪を思いとどまるとのことです。この目を印象付けたポスターの制作を検討しております。

4 番目に市民一人一人の防犯意識の高揚に向けた活動に取り組まなければならないと考えております。行き着くところは市民一人一人の問題意識にかかっていると思うのです。各町会の随行パトロールにおける各種防犯情報の提供を積極的に行いたいと考えております。また、広報誌、とだピースガ

防犯対策～今後の課題

- 住民による自主防犯 **パトロール員の高齢化**
- 職員パトロールの **形骸化**
- 犯罪率低下 **頭打ちの打破**
- 市民の **防犯意識** の高揚

ードメールなどを使って市民一人一人の防犯意識の高揚のための活動に取り組んでいきたいと考えております。

以上で戸田市の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

質疑応答

●質問 このような事業に対する戸田市の予算と市役所の職員数、ボランティアの頻度について教えてください。

○回答 予算については、安全ステーション、委託警備員の賃金その他の防犯事業を含めた総計で約1億円をかけています。職員数、ボランティアの頻度についてはほぼ全職員約900人がかかわっております。頻度は水曜日を中心にやっているのですが、春先ぐらいから中学生のたむろが多くなり、その際には夜間に体制を組んでパトロールをさせていただきました。

●質問 防犯カメラを設置されるということですが、全て市でお金を出されているのか、埼玉県警さんで何台か設置されているのですか。

○回答 防犯カメラに関しては、先ほど説明させていただきました懸垂幕装置に設置した防犯カメラについては緊急に対応したいということで、防犯協会に協力いただいて設置させていただきました。来年度正式にカメラを市の予算で付け替えることを考えております。

●質問 市内2か所に安全ステーションを設置してあるという説明でしたが、こういった規模の施設で、それは市の施設なのか、それとも民間のテナントみたいな形で入っていらっしゃるのか、それは常時開設しているのか、ランニングコストは相当かかると思うのですが、その施設についてお伺いしたいと思います。

○回答 安全ステーションは市の施設で、常時、午後を中心に毎日開設しております。ランニングコストは警備員の委託業務に含まれています。